

俳優

# ひかる一平さんインタビュー

## 芝居を通して地元、大田に貢献

### 大田出身のことですが

大田区生まれ、山王小学校 大森第三中学出身で現在も大田区に住んでいます！

### ジャニーズに入られたきっかけを聞かせてください

姉が勝手にジャニーズに応募したんです。そうしたら事務所から電話があつて、それをきっかけに芸能活動が始まったんです。すぐに当時大人気のドラマ「3年B組金八先生」のオーディションに行くように言われて最終審査に残って、16歳で俳優としてデビュー、さらに歌手としてもデビューしました。

その後、「必殺仕事人」で三田村邦彦さんに仲良くしてもらい、アドバイスを受けて、本格的に芝居をやっているところと歌もやめ、事務所も変えて、それから芝居一筋でやってきました。

ということを学んだことが、僕自身の良い経験になりました。

そんな折、デビュー当時バンドを通じて友人だった堀田秀吾さんと旧交を温める機会がありました。久しぶりに会った彼は、明治大学でアメリカ仕込みのフラットな人柄が学生に大人気の名物イケメン教授になっていました。彼が専攻していた言語学・心理学・コミュニケーション学や「会社を立ち上げるなら儲ける事ももちろん必要だけれど、社会貢献の精神が大事だ」との持論に共感。彼の言葉は、これまで僕自身が漠然と思っていた「自分たちの活動が少しでも社会のために役立つなら大田区発信の何かをしたい」という気持ちの後押ししてくれました。そして、所属していたプロダクションを辞めて、自分で新しく会社を設立。「社会貢献」を柱の1つに掲げて、子どもから大人までが芝居を通して自分を解放し、自信を持って成長できるような会社をとの思いで立ち上げました。

また、僕は特に日本の縦割りの組織が嫌で、社内では上下関係をなくして、みんな平等の立場で仕事をしようという考え方でやっています。だから会社ではみんな「社長」ではなく、「一平さん」

### 両親はどんなかたでしたか？

父は何事にもきちんとした人でした。母は料理のうまい優しい人でした。ある時、インタビュで母の料理のことを聞かれ、ちょうど反抗期の時期もあつて「母の料理はまずいです！」と答えたら、後々母は母はそのことを気にしていました。母が亡くなる10年前位まで長いこといろいろ心配や迷惑をかけたし、いつか親孝行をしようとは思っていました。

### ご両親の介護を14年間されたそうですね

当たり前のことですが、先祖がいて親がいて、今の自分があるとしみじみ感じるんです。だから自然に、親の面倒を見るのが当然と思うようになっていました。

母は、半身不随で療養していた時「みんなに迷惑をかけるから早く死にたい」と呼びますよ。

どんな時も、自分がしっかりしていれば人は必ずついてきますね。年齢や芸歴は関係ないし、肩書きも関係ない。肩書きは若い時には必要かもしれないけれど、年齢が進めばいなくなるものです。あつたらうまく使う程度のものだと思うし、肩書きはその人が本当に偉くなればいらぬと思いますね。それより、その人の価値は周りの人を見れば分かると思うので、今の仲間たちと心を合わせて、良い会社・仲間づくりを話し合っています。

### 「社会貢献」として芝居のワークショップをされています

2013年の3月から、恩返しのもりで僕ができること、芝居を通して、大田区発信の社会貢献活動を始めました。教育委員会の支援を受けた、「イジメ」をテーマに取り上げた芝居です。やられる側やる側を演じることににより、相手の思いを知って、お互いの理解を深め合い、イジメが無くなればとの思いから「大田区教育委員会後援 芝居を通した人づくりワークショップ」の

とよく言っていたのですが、がんばって介護している父と僕の気持ちを感じてくれて、最後はとても喜んでくれました。両親あわせて14年間介護をしたおかげで、家の事は何もできなかった僕が、洗濯も料理も掃除も、家事全部を自分でやるようになりましたね。孫の顔が見たいと言っていた母に、亡くなる2カ月前に孫を抱かせることができたのも親孝行かなと思います。今でも気持ちが行き詰まった時、「母に話したいな。夢に出てこいよ」と思うのですが両親とも夢に出てきませんね。きつと満足して逝ったのでしよう。



### ひかる 一平

(株)スカイアイ・プロデュース代表  
1980年に俳優デビュー、翌年歌手デビュー。その後俳優業に専念し、TVドラマ・映画・舞台と数多くの作品に出演。2003年より数多くの経験を生かし、子どもタレントを養成するプロダクションの講師を9年間務める。

### 堀田 秀吾

(株)スカイアイ・プロデュース取締役  
明治大学教授。シカゴ大学言語学部博士課程修了。言語学者。「明治一受けたい授業」に選出されるなど学生からの信頼も厚い。著書多数。

スカイアイ・プロデュースホームページ  
<http://www.skyiproduce.com/>

### プロダクションを新しく立ち上げるきっかけはどのようなことでしたか？

30代の頃、子役スクールの知り合いから「講師をしてくれないか」と声がかかったんです。初めは、スキルもないし、演じる仕事の役者が教えるようになっておしまいかなと思って考えましたが、3カ月の約束で教えることにしたんです。ところが始めたら、とにかく子どもたちの一生懸命さに教えられることが多く、気がつけば9年間も続けていました。子どもたちの才能を伸ばすために関わり続けることの大切さ、こちらが押ししていけば相手の才能は必ず開く

タイトルで行うことができました。

今後も豊島区、多摩の瑞穂町、品川区、目黒区にも輪を広げ「芝居」や「ダンス」を取り入れた、親子でのコミュニケーショントレーニングを行っていきます。この運動をもっともつと広めてイジメをなくし、みんな元気で輝いてもらいたいと考えているんです。

### これからの目標はどんなことですか？

シニアの方々から行く先々で、私たちに合うワークショップをやってもいいよとの声をいただいていますので、芝居やダンスを通して生涯学習の

一環としてやりたいなと思っています。僕がそれまでと違う「ひかる一平」

としてスタートを切れたのは、芝居の世界では先輩の三田村邦彦さんとの出会いが大きかったし、堀田秀吾さんとの再会が今回の会社設立へ踏み出すきっかけの1つでした。こうした人との出会いとつながりが今の自分を支えてくれていると思います。そしてこれからは、僕が会社やワークショップを通して、子どもたちが自分の中に今までと違う自分を発見しさらに輝いていけるきっかけ作りをしながら、どこまでも子どもたちに関わり続けていきたいです。小さい時にしっかり関われば、大人になった時にも自分の力で生きていけると思うからです。すつこく疲れることもありますが、責任のあることをしているとエネルギーが出てくるのを実感できるんです。

49歳！これからも夢に向かい進んでいきたいと思っています。

